

「不登校」の「子」の「親」を経験して、得たもの

E.F氏(保護者)

いま、振り返ってあの時代の私たち親子になんて声を掛けようか。200万人都市札幌の、小さな部屋の片隅で、苦しみがいていたあの頃。

子供が学校に行かなくなってしまったのは、わたしの育て方が悪かったのかと、わたしが全ての元凶なのかと、自らを責めてもいたあの日々。片っ端からいろんな相談センターに電話を掛け、話を聞いてもらって泣いた日々。あちこちのフリースクールなどを親子で巡った日々。学校はいいから外に出ようと、公園の桜を見に行ったり、ディズニーランドに連れて行ったり、異文化に触れようと、台湾旅行に連れて行ったり…。親子で必死に闘っていた。

貴病院の内観療法で親子それぞれが見つめなおし、再生、復活を遂げた。貴病院の太田先生はじめスタッフの皆様にはたくさんのご助言や励ましを頂き、大変お世話になり、心から感謝申し上げたい。本当にどうもありがとうございました。

下記に記す言葉は、当時苦しみの中、自分自身を励まし、奮い立たせ、勇気を起こさせてくれた言葉だ。

- ・伏久者飛必高。「菜根譚」
- ・美味しいパンほど、手が掛かる。(気分転換に出かけたパン教室で、先生が何気なく話していた。子育てに通じる気がした。)
- ・焦らなくても、あきらめない。
- ・人生はあなたに期待している。
- ・まっすぐ登る山登りよりも、回り道しながらの山登りのほうが、いろんな景色を味わえる。
- ・歩くという字は「少し」と、「止まる」で、できている。
- ・人生はアップで見ると悲劇だが、ロングで見ると喜劇だ。(チャップリン)
- ・この苦しみもあの苦しみもみんな肥料になったんだなあ。(相田みつを)

「不登校」の「子」の「親」を経験して得たもの、それは「不登校」の「子」の「親」を経験しないと、決して出会えなかったであろう人たちに出会えたことだ。

いろんな立場の人がいて、いろんな関わり方があって、いろんな世界があって…。

そして何より、より家族の結びつきが強くなったように思う。

家族みんなで大きな壁を乗り越えた。乗り越えることが出来た。

これからもより一層力を合わせて前進し続けたい。